

「青少年からのメッセージ」の募集結果について

1 事業の目的

毎年、異なるテーマを設けて、青少年（18歳以下）から作文及び漫画・イラスト形式のメッセージを募集し、入選作品等を掲載するメッセージ集を作成・配付することにより、自己表現や自己実現の機会を提供して青少年自身の人格形成に資するとともに、地域社会における青少年の健全育成に対する関心を高める。

2 事業の概要

- (1) テーマ 被爆70周年の節目の年である本年度は、子供たちにヒロシマの役割について再認識してもらうため、「平和な未来のために、私にできること」とした。
- (2) 規格 【作文部門】小学生200字程度（5・6年生は300字可）、中高・一般は400字程度の文章とする。
【漫画・イラスト部門】1～4コマの漫画・イラスト
- (3) 応募資格 市内に在住又は通勤・通学する、小学生から概ね18歳までの者
- (4) 募集期間 平成27年6月1日（月）～平成27年7月10日（金）《必着》
- (5) 応募結果 作文部門11,526点、漫画・イラスト部門269点、合計11,795点の過去最高の応募があった。

参考：各年度のテーマ及び応募結果

区 分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
テーマ	私の しあわせ	つながり	心からありがとうと思つこと 中一級みんなに守つてほしい社会 がーがやけー	いじめ	私にがんば る力をくれ たことば	平和な未来 のために、私 にできるこ と	
作 文	小	925	1,121	1,695	1,378	2,714	3,765
	中	4,777	4,347	3,798	3,574	6,594	7,650
	高・一般	429	270	167	293	425	111
	計	6,131	5,738	5,649	5,245	9,733	11,526
漫 画	小	104	76	63	81	108	211
	中	8	43	9	37	26	56
	高・一般	5	7	23	0	4	2
	計	117	126	95	118	138	269
計	小	1,029	1,197	1,758	1,459	2,822	3,976
	中	4,785	4,390	3,807	3,611	6,620	7,706
	高・一般	434	277	190	293	429	113
	計	6,248	5,864	5,755	5,363	9,871	11,795

(6) 選考

10月2日(金)に審査委員会(学識経験者、関係団体等(作文部門、漫画・イラスト部門とも各10名:別添名簿のとおり))を開催し、作文部門は「小学生の部」、「中学生の部」、「高校生・一般の部」別に、漫画・イラスト部門は一括して入選作品及びメッセージ集掲載作品を選考した。

審査委員の方々から、「子供たちは、被爆の実相をしっかりと受け止め、平和を自分たちの問題として真剣に考え、行動しており、広島の子供たちならではの素晴らしい作品ばかりである」と意見をいただいた。

○ 入選作品数:合計16作品

- ・作文部門:「小学生の部」、「中学生の部」、「高校生・一般の部」別に金賞1点、銀賞1点、銅賞2点の計12作品
- ・漫画・イラスト部門:金賞1点、銀賞1点、銅賞2点の計4作品

○ メッセージ集掲載作品数:合計73作品

- ・作文部門 小学生の部:24点(入選作品4点を含む)
- ・作文部門 中学生の部:32点(入選作品4点を含む)
- ・作文部門 高校生・一般の部:11点(入選作品4点を含む)
- ・漫画・イラスト部門:6点(入選作品4点を含む)

(7) 表彰

入選者は、11月28日(土)に青少年センターで開催する「第29回広島市青少年健全育成市民大会」において、市長が表彰するとともに、金賞受賞者(4名)に作品を発表してもらい、審査委員長から、審査を振り返っての講評をいただく。

(8) 作品の活用

入選作品を含む優秀作品(73作品)を掲載したメッセージ集を作成し、広島市青少年健全育成市民大会で参加者全員に配布するとともに、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を始め、関係部署、青少年健全育成連絡協議会、公民館及び図書館等に配布する。また、メッセージ集掲載作品の本市ホームページへの掲載や、各学校へのデータ配信などにより、青少年健全育成のために広く活用する。

平成27年度「青少年からのメッセージ」審査委員会委員

区 分	委員名	所属・役職	審査部門	
			作文	漫画
学識経験者 及び 市民代表	石 井 健一郎	広島市青少年健全育成連絡協議会副会長	○	○
	鈴 木 由美子	広島大学大学院教育学研究科教授	○	○
	田 原 直 樹	中国新聞社論説委員室委員	○ (委員長)	○ (委員長)
	佐々木 洋子	広島市地域活動連絡協議会会長	○	○
	和 田 勝 恵	日本児童文学者協会会員	○	
	中 村 耕 三	砂谷中学校長(平成27年度広島市中学校 教育研究会国語部会長)	○	
	吉 岡 克 弥	山本小学校長(平成27年度広島市小学校 教育研究会国語部会長)	○	
	大 井 健 二	広島市立大学名誉教授		○
	中 島 健 二	五月が丘中学校長(平成27年度広島市中 学校教育研究会美術部会長)		○
中 山 和 一	井口小学校長(平成27年度広島市小学校 教育研究会図工部会長)		○	
行政関係者	蓼 原 清 道	教育委員会青少年育成部育成課長	○	○
	高 山 茂 己	教育委員会青少年育成部育成課 非行防止・自立支援担当課長	○	○
	金 森 禎 士	教育委員会青少年育成部放課後対策課長	○	○
	13名		10名	10名

(敬称略)

テーマ／「平和な未来のために、私にできること」

【作 文 部 門】

《小学生の部》

金賞 『会話で伝える』

伴南小学校6年 沖野 羽那

私が、平和な未来のためにできることは、相手と会話し伝えるということです。

どういうことかという、暴力で相手を納得させようとせずに、しっかりくわしく、言葉で伝え合うということです。人間は、動物とちがい言葉で心を伝え合うことができます。会話することで、相手の事をより知れる。そして、理解しあえると思います。

友達ともめたりした場合、「この人いやだな。」と思うことがあります。でも、何度もくり返し会話していくうちに、心をうちあけることができ、知ることでもできて、より仲を深められると思います。そして、相手のことを理解できるようになるはず。会話には良い所がたくさんあります。

私は、このようなことから、言葉で会話しあう事が大事だと感じます。まずは、自分自身が頭に入れて行動していきます。

銀賞 『今を生きる者として』

山本小学校6年 荒本 直樹

世界で行われている紛争、内戦などの争いごとを止めさせられるのは、僕たちです。僕たち自身が、千羽づる折りなど身近な平和活動から参加し、広めていくことによって、世界の平和に関する意識を高めることができます。人種や宗教、考え方のちがいなどではなく、この地球で共に生きる仲間として互いに相手の気持ちを思いやる心を持てば必ず平和な社会は実現します。それは、今を生きる者としての自覚を1人1人が持てば早く実現するものだと思います。

僕の学校では、毎年平和集会が行われています。そんな行事を通して、ヒロシマの歴史をしっかりと学び、二度と大きな過ちをくり返さないように、よりたくさんの人に伝えます。そして、平和運動に参加する人が増え、輪がもっと広がるといいなと思います。

銅賞 『平和な未来のために今、私ができること』

可部小学校6年 湯ノ木 花梨

平和な未来のために私にできることを考えてみました。そして前に読んだマザー・テレサさんの言葉を思い出しました。「世界平和のためにできること。それは家に帰って家族を愛してください。」「平和を得られていないならそれは私達が仲間ということを忘れてからです。」身近な家族や、友達を大切にできない人が世界を平和にできるはずがありません。今、世界のどこかで戦争が起こっていて、一つの命が失われていても、私たちは、それに直接、関わることはできません。もちろん、世界に目を向けることも大切です。でも今、自分にできることは、身近にいる人のことを大切に想いながら生活すること。そして、今の幸せな生活に感謝すること。そして、その感謝を口に出して、相手に伝えることが平和につながると思います。

銅賞 『三つの心』

長東小学校6年 藤川 空知

ぼくたちが平和のためにできることはいろいろあると思います。その中でも特にぼくが大切だと思うことがあります。それは謝る心、許せる心、そして感謝する心を持つことです。

謝るということは自分の非をみとめ反省し相手にその気持ちを伝えることです。これで相手は自分の気持ちを理解してくれます。そして相手からの気持ちをみとめ、敵意を捨てる「許す」ことも大切です。この二つの心を持つことで戦争はなくなると思います。そして最後に感謝の気持ちを持つことが大切です。どんな小さなことでも「ありがとう」と言葉にして感謝の意を伝える、それをすることで人と人の間におだやかな平和の花が咲きます。三つの心を大切にして、言葉にして伝えていくことをしていきます。

《中学生の部》

金賞 『優しい心』

大塚中学校3年 佐々木 明音

私は「未来」とは何なのか、じっくり考えてみました。「未来」とはいつなのか、どこからやってくるのか。じっくり考えてみつけた答えは「未来」とは「今」の積み重ねであること。「未来」は「過去」からやってくる。1秒先も確かに「未来」であって10年後も20年後もその1秒の積み重ねなのです。

そこで私は「平和な未来」とは「平和な今」なのではないかと考えました。今をどう生きるかによって未来は大きく変わります。

私は今の積み重ねの中で忘れないようにしていることがあります。それは「優しい心」です。どんな嫌な思いをしたときだって絶対に忘れてはならない心だと思っています。優しさを忘れて強がっていると必ず不安になります。不安な気持ちは平和を生みません。

だから私は平和な未来のためにいつも優しい心をけっして忘れません。相手の気持ちを考えた言動を心がけ、いつも感謝の気持ちを持ち続け、笑顔を絶やさず今を生きていきます。何か大きなことは成し遂げられないけれど、今の私が平和な未来をつくと信じて。

銀賞 『平和のつながり』

広島中等教育学校1年 新宅 彩乃

私の小学校には、学校内に平和資料館があり、そこに来たお客さんに中を案内したり、平和についてお話をしたりしていました。

でも、私はそのたびにこの活動が少しでも平和に役立つのだろうか。これをきっかけにだれかの命が助かるのだろうか、ということを考えていました。

でも、ある日、この思いは平和資料館に来たお客さんのおかげでふっきれました。

そのお客さんは、私が資料館の中を案内していると、その人はすごく真剣に話をきいてくれて、他のお客さんとはちがう、何かを感じました。その方は外国の方だったけれど、案内が終わると、「ありがとう。」と言ってくれて、とてもうれしくて、私はその時、私がこの人を案内したのはむだなんかじゃなくて、ここから平和の大事さが受けつがれていくんだ、と思いました。

私はこれからも、機会があれば、平和の大事さをいろいろな人に伝えていきたいと思っています。

銅賞 『これから創る平和な未来』

東原中学校3年 川越 千聖

私が広島に来てから1年が過ぎました。平和について考えるのはこれで二度目、はっきりとした答えはまだ出ていません。

この1年間で原爆の知識は今までと比べられないほど増えました。「8月6日」は忘れてはならない日。しかし、私は恥ずかしいことに今まで8月6日が来ても何も考えないばかりか、原爆のことすら思い出していませんでした。私は、一瞬の利益や幸福のために行動するのは愚かで、絶対してはいけないと考えています。福島と広島、この両県に住んで大切な平和を痛感しました。原発事故での放射能の被害は人間によって生み出されたもの。人が人によって傷つけられ、幸せを奪われないことを平和と呼ぶのだと思います。平和な未来のために、私たちは過去の過ちを忘れてはいけないと思います。

過去に学び、二度と繰り返さないためには、自分の近くから平和にしなければなりません。みんなが平和を目指し、笑顔の溢れる生活が広がれば、平和な未来も見えてくるはずです。

銅賞 『戦争のない世界を創るために』

中広中学校3年 野中 駿斗

僕が、この9年間の学習を振り返って一番印象に残っているのは小学校6年生の時に聞いた語り部さんからの話。原子爆弾投下直後の状態です。辺りは焼け野原と化し、かろうじて生きている人のうめき声等が聞こえたとのことでした。その話を聞いて本当に恐ろしかったです。何の予告も無しに一発の原爆が落とされて、その破壊力は広島を壊滅させ、生存者をも放射線の後遺症で苦しめています。そんな悲劇をもう二度と繰り返してはいけないと強く思いました。

この悲劇の物語を知って僕にできること、それは「伝える」ことだと思います。今、戦争が終結して長い時を経ています。そして、戦争への恐怖を忘れている人が大多数だと思います。ですが「伝える」ことで戦争への恐怖を芽生えさせてくれれば、戦争は絶対にいけないことと認識できると思います。戦争と聞いて「昔あったことだよね」ではなく、「絶対に繰り返してはいけないよね」となるような世界を「伝える」ことによって創っていけたらと僕は思います。

《高校生・一般の部》

金賞 『平和の鐘を鳴らそう』

ノートルダム清心高等学校3年 藤岡 小雪

「世界平和記念聖堂」という教会をご存知だろうか。私の通う高校では、毎年8月6日に有志の生徒でこの聖堂の案内を行っている。私は案内を行う中で聖堂の鐘に込められたあるメッセージを知り、より多くの人にこの聖堂を訪れてもらいたいと思うようになった。

世界平和記念聖堂は1954年に原爆被害者の冥福と世界平和を祈るために建てられ、建築の際には海外や仏教団体からも多くの寄付や寄贈品が送られた。その寄贈品の中でも特に私の心を打ったのが「平和の鐘」だった。この鐘はドイツ軍の大砲を材料として製作されたもので、次のようなメッセージが込められている。「鉄という同じ材料を使って、残虐な兵器を作ることもできますが、平和を訴えることもできます。あなたは、どちらを選びますか？」

私は今年も聖堂案内に参加する。この活動を通じてもっと多くの人にこの聖堂に込められた意味を知ってもらい、祈りの輪が広がっていけば良いと思う。

銀賞 『私たちに出来ること』

広島皆実高等学校2年 金川 絢音

「相手を知ろうとすること。」これは私が常に気をつけていることです。誰かと話をする時、相手に言いたいことや気持ちが伝わらないと悲しい気持ちになります。そこからすれ違いが起こり、ケンカになってしまうこともあります。それは世界でも同じで、相手国を知ろうとし、異文化を認め合うことが平和のために必要なことだと思います。だからこそ人と関わる時には、どうしてこんな事を言うのか、何を伝えたいのかと相手について知ろうとすることが大切なのです。何もかもが自分の思う通りに進むことはありません。自分が正しいからと相手をけなすのではなくて、「相手について知ろう。」と考える行動をすることが必要なのです。そして、伝えたいことの一方通行が無くなれば、対立も無くなると思います。

私たちに出来るのは、小さな心配りをしていくことだと思います。それを継続し、積み重ねていくことが、平和な未来への一歩となると考えます。

銅賞 『伝わる心』

広島皆実高等学校2年 石川 裕吏加

「思いやりと優しさが溢れる世界」というのが私が考える平和な未来です。

私は部活動でマネージャーをしています。そして、その顧問の先生のログセが「思いやりと優しさ」という言葉です。この言葉には人を思いやり、大切にする、そのために自ら行動するという意味が込められているのだと私は感じます。

先生は、いつも人のことを考えて行動して下さっています。人が困っているのを見たときは助け、人が困らないように先のことを考えておられます。そして、最近では私も人のことを先回りして考えることができるようになりました。「思いやりと優しさ」の精神は、人に伝わっていくものなのだとふと気づきました。

私は、これからも周りのために自ら行動していきます。私が人に優しさを持って接することで、その心その人や周りの人へ伝わり、やがて平和な未来へつながることができると思います。私の小さな行動で未来が大きく変わることを願っています。

銅賞 『これからの日本の平和のために』

広島皆実高等学校3年 藤井 陸

今、世界中で戦争が絶えず多くの人々が危険な目に遭わされ悲しんでいる。どうすれば戦争のない世界になるのか。戦争をやめるためには一国の代表が力を尽くすだけではだめだ。国民一人一人が幸せを追及していき、国全体として戦争はだめだという雰囲気をつくり出す必要がある。

まず身近な人を幸せにしていくことから始めたい。人を幸せにすることで倍になって自分に返ってくるという話をよく聞く。全員がそのような意識で過ごすことにどんどん幸せが広がっていき世界中の多くの人々が幸せになると私は思う。

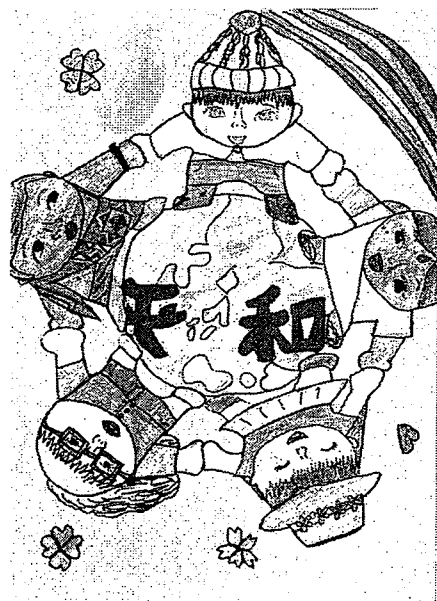
政治に参加することも必要である。どの人を選べば平和になる政治をやってくれるのかを見極め、多くの国民が投票する。私は政治に興味なかったが今の政治の動きは注目してみている。日本が間違った方向に進まないように我々国民が冷静な判断を下し、考えたうえで投票していく。それがこれから日本を背負っていく若い私たちに課せられた使命である。

【漫画・イラスト部門】

金賞 『せんそうのない世界を目指して!!』

吉島小学校4年 中本 帆香

わたしは、世界中にいる人と仲よくしたいです。みんなで仲よくして、地球を平和にしましょう。



銀賞 『願いをかたちにするということ』

祇園中学校3年 内藤 瞳

千羽鶴は、小学校のときから毎年、学校全体で作っていました。小さなことですが、続けることで伝わる平和への思いがあります。



